

国立公園にみる生物多様性の危機

# 第1の危機：人間活動や開発

## 人が引き起こす負の要因による影響です。

人間活動や開発など、人が引き起こす負の要因による生物多様性への影響です。開発による生息・生育地の減少や環境の悪化、めずらしい生き物の乱獲や盗掘が今も続いています。

国立公園は、開発による環境の悪化などが見られます。

### 赤池湿原



利用者の踏み込み（池の手前の茶色になっている箇所）により、湿原が減退しています（そのためロープを張る等の対策を講じています）。

### ハクサンコザクラ



「ハクサン」を冠にする植物はハクサンコザクラやハクサンチドリなど18種を数えますが、盗掘も絶えません。

## 白山国立公園



御前峰（2702m）より大汝峰を望む。  
大小7つの火口湖があります（右に見えるのは紺屋ヶ池）。  
指定日：1962年（昭和37年）11月  
面積：47,700ha  
関係県：富山県、石川県、福井県、岐阜県

白山国立公園は、ツキノワグマ、ニホンカモシカ等が数多く生息する大型野生動物の宝庫であり、山稜部一帯にはハクサンフウロ、クロユリ等の多彩な美しいお花畑が数多く見られ、また山麓にはブナを中心とした自然林が広がり、原生的な自然環境が保たれています。また、古くからの山岳信仰の対象となっています。

